

『日本の女性監督』

坂根田鶴子を知っていますか？

日本初の女性監督、坂根田鶴子にスポットを当てたドキュメンタリー作品、また坂根田鶴子監督自身の作品も上映します。映画ファンにもまた女性史研究の分野でもなかなか知られていないその足跡を知る貴重な機会です。ぜひご参加下さい。トークゲストとして女性史研究家、池川玲子さんをお迎えしています。

- ◆ 日時 2005年8月27日（土）16：00～18：00
- ◆ 場所 ヌエック（国立女性教育会館） 研修室109
- ◆ 参加費 500円
- ◆ 申込方法 当日直接会場にお越しください
- ◆ 定員 0名（定員になり次第締め切ります）
- ◆ プログラム 『坂根を田鶴子を追って』（熊谷博子監督作品上映、22分）
『開拓の花嫁』（坂根田鶴子監督作品上映、22分）
池川玲子さんのトーク

主催：シネマとフェミニズム研究会（東京）

【問合せ先：03-3306-2762（小野）】

☆「シネマとフェミニズム研究会」は女性の視点でビデオ、映画を合評し、多くの方々に作品を紹介しています。

☆ 冊子『フィルムが紡ぐ女たち：ビデオに観るフェミニズム』2001年版、2003年版、2004年版、好評発売中！！2005年版はただ今作成中、Coming Soon！

日本の女性監督第1号 坂根田鶴子さん

京都出身で、日本の女性映画監督第1号の坂根田鶴子さん(1904-75)の生誕百年を記念して、知られざる生涯と業績を再評価する動きが高まっている。今月には、書簡や撮影日記

などの遺品が研究者の手で初めて整理された。「男性中心の撮影所で働く女性のパイオニア。映画史、女性史の両面からスポットを当てる」と研究者らは意気込んでいる。

銀幕人生にスポット

生誕100年 業績評価の動き

女性監督第1号のありし日の坂根さん



坂根さんは同志社女子専門学校(現・同志社女子大)を中退後、結婚するが離婚。父親の勧めで日活太秦撮影所に入った。巨匠溝口健二監督の助監督として経験を積み、「初姿」(三六年)で監督デビュー。その後も溝口の「浪華悲歌」(祇園の姉妹)などに付き、

京の映画関係者ら 遺品集め展示へ



四〇年の松竹映画「北のケを敢行した。同僚(アイヌ)」撮影で四二年には満州映画協会は半年をかけて北海道口会に入社、記録映画を手督復帰を望むが実現せ

がけたが敗戦後に帰国、松竹京遷に入社した。監

ず、晩年まで松竹や大映の英文の手紙もある。作品の編集やスクリプタを務めた。現存する作品は満州での「開拓の花嫁」のみといわれる。生涯を広く紹介したいと、昨秋から、映画企画会社如月社代表の神谷雅子さんが中心にプロジェクトが発足。六月、神谷さんが市内在住の遺族から段ボール四箱分の遺品を預かり、今月、東京都在住の女性学研究者・池川玲子さん(まが)が開封して記録した。

資料は、溝口家や家族、同僚からの約三百通に及ぶ書簡、撮影のスナップ写真、書きためた未発表のシナリオやプロット、撮影記録など現場のノート類など。明治期に來日して京都の女性英語教育に尽くした米国人宣教師マアリー・デントンあて

生誕100年を機会に遺族から初めて託された坂根さんの遺品を整理する研究者ら(京都市中京区の京都文化博物館)